

日時：2017年1月30日（月） 11:40～12:00

質疑応答

Q：修正した通期業績予想について、前年比で見ると、社会インフラとキャリア NW が減少する一方で、企業 NW は堅調ということでしょうか。

A：その通りです。消防救急無線デジタル化が完了したことによる反動と、通信事業者の投資抑制が今期の売上高に大きく影響を与えますが、企業向けは堅調を維持しています。

Q：社会インフラにおける道路分野とは、どのようなビジネスなのでしょう。また、競争激化とはどのような事が起こっているのでしょうか。

A：道路分野におけるビジネスは、例えば、高速道路にある非常用電話や渋滞状況などの情報通知システムなどの通信ネットワークの構築です。本分野では、通信事業者の投資抑制の影響などから、本格的に新規参入してくる会社もあり、その結果、競争激化が起こっております。

Q：3Q 累計期間で、キャリア NW が減収減益となっておりますが、これは通信事業者の設備投資が一巡した影響なのでしょう。

A：つながり易さが実現し、基地局関連を中心に投資が減っており、少なくとも 5G まではこの傾向が続くと見えています。しかしながら、受注面では底ばい感が出てきており、これ以上大きく落ちる状況ではないと考えます。

Q：キャリア NW の収益性改善の要因となっている原価低減施策について教えてください。

A：現在の売上規模に見合った体制とするために、他の成長分野へのリソースシフトや、内製化による外注費の削減などを進めています。

Q：社会インフラの減益要因について、売上高の減少以外に特殊な要因はあるのでしょうか。

A：1Q には若干不採算となった案件がありましたが、主たる要因は売上高の減少によるものです。

Q：新たな業績予想について、営業利益が減少している中、当期純利益が前年並みとなっているのは何故でしょうか。

A：前期に子会社の再編に伴う年金費用の計上や税制改正に伴う繰延税金資産の取崩しなどがあり、今期それらが解消されるためです。

Q：働き方改革がテーマとして挙がってきておりますが、EmpoweredOffice 事業によって追い風となっているのでしょうか。また、テレワークもこれからの女性活躍社会を考えると避けられないテーマだと思いますが、取組みについて教えてください。

A：当社では実際のオフィスをショールームとしてお客様が見学出来ますが、来場者も着実に増加してきておりニーズの強さを感じています。テレワーク分野も、ICT システムだけではなく労務制度の面からもアプローチしており、自社での実証実験を通じて課題を洗い出し、ソリューション化しています。景況感には不透明さもありますが、これら分野に対する投資は必要不可欠だと思っており、ニーズを着実に取込み、受注へとつなげたいと考えています。

Q：来年度の方向感を教えてください。今期の着地からの増収増益は可能なのでしょうか。

A：来年度の業績は予算の中で検討中の段階ですが、今年度は通信事業者の設備投資抑制の影響や、消防救急無線デジタル化プロジェクトの反動減など厳しい状況でありましたが、来年度はそのような大きなマイナス要因はなくなると考えています。社会インフラがどの程度伸ばせるか不透明ではありますが、企業向けでは働き方改革関連へのニーズは高いですし、太陽光発電所建設 PJ の売上貢献もありますので、今期の着地から少しでも踏みあげられるようにしていきたいと考えます。

Q：今期は 10 期連続増配を予定していますが、来年度の配当についてはどのように考えていますか。

A：来年度の配当については、どの程度の利益が見込まれるか次第ではありますが、安定配当を基本としており、減配はしたくないとの考えの下、検討を行っていきます。

以 上